

家庭教育力の強化を図ろう

～「夏休み みんなでSDGs」～

豊田市立高嶺小学校PTA

1 学校及び学区の概要

本校は豊田市の南部、上郷地区に属し、安城市・岡崎市それぞれとの境に位置している。校区全体は平野となっており、明治用水を使っての水田や、梨などの果樹園。広大な敷地をもつ自動車関連工場や伝統的な製法で作っている味噌工場があるなど、農業も工業も盛んな地域である。

校区には「上和会」「中和会」「下和会」「柘塚西」「広美」「上郷大成」「福受」の7つの自治区があり、7自治区をまとめる存在として高嶺小学校がある。7自治区のまとまりを示す「七つ輪」という言葉が本校の至る場所で掲げられ、地域全体で647人の児童は育てられている。

米作り体験、川探検、味噌作り、梨園やプレーキ工場見学など、どの学年も地域から学ぶ活動を取り入れており、PTAはボランティアとして参加し、活動を支えている。



【昇降口前の七つ輪像】

2 研究のねらい

SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の略で、日本語では、「持続可能な開発目標」と訳され、「今ある問題を解決して未来の世界をより良いものにしていくための目標」とされている。子どもたちは社会科や総合的な学習などの時間で学ぶが、SDGsを広げるためには家庭での取り組みが重要と考える。

今回、PTAからこの世界的な活動を各家庭で取り組むことを発信することで、夏休みを通じて、親子ともに成長し家庭教育力強化を図ることを目的とする。

3 研究の視点

- (1) 難しい言葉に囚われず、SDGsをより身近に感じる機会となる事を目的とする
- (2) 学校PTA活動への保護者の積極的な参加を推進する
- (3) 活動を通じて家庭内で子供たちと意見交換を行い、教育力強化へと繋げる

4 研究の方法

(1) アンケートの実施

- ①家庭内でSDGsに対する目標を話し合い、何を実施するか決定する
- ②取り組み内容を記入する
- ③取り組んだ感想や思い出を自由に記入してもらう

(2) アンケート結果の集計と振り返り

- ①選んだ目標の集計をし、取り組み内容の把握を行う
- ②「SDGs」の取り組みから得た家庭教育の変化を確認する
- ③ホームページに結果を掲載し、各家庭で振り返りをする



【夏休みに配布した文章】

5 研究の実施

(1)「夏休み みんなでSDGs」の実践 その1

SDGs 全17項目の中から各家庭で自由に実践してもらった。様々な目標の中から生活に密着した取り組みが多く、「6.安全な水とトイレを世界中に」「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「11. 住み続けられるまちづくりを」「12. つくる責任つかう責任」「13. 気候変動に具体的な対策を」「14. 海の豊かさを守ろう」が多く実践されていた。



【海のごみを拾う様子】

具体的な内容については、11の目標ではごみを分別する、ペットボトルや牛乳パック、着られなくなった衣類等はリサイクル回収に持参しリサイクルする、買い物の際はエコバックを使用するなど実践されていた。12の目標では食べ残しをしない、食べる分だけを用意する、野菜の使わない部分をペットの餌に活用するなど多くの家庭で実践されていた。他にも14の目標において海のごみを拾うことや、プラスチック製品を減らし紙製の物を使用する、電気の無駄使いを無くす、エアコンの設定温度を高くする(冷房)など、エネルギーに対する取り組みも見られた。

(2)「夏休み みんなでSDGs」の実践 その2

各家庭の取り組みも校外学習や地域へと活動の場が広がった。「環境学習施設の見学に校外学習として参加してきました。ゴミの分別に興味をわき、率先して家庭ゴミの分別ができるようになりました。」という積極的な活動や、「家族と近所を散歩しながらゴミ拾いをしたときに、地域の人から『ありがとう』の言葉をもらえた。」という報告もあり、地域の温かさを実感する「11. 住み続けられるまちづくり」の活動にも繋がった。今後、集計結果と各家庭に記入してもらった感想や思い出を学校ホームページに掲載し、各家庭で振り返りを行う機会を作る。

6 研究の考察

「今後、個人や家庭内ではなく、たくさんの人と力を合わせて楽しく取り組んでいきたい。」と継続して活動を行いたいという意見から、学校では子供たちが「SDGsやろうよ!」という声を上げ、継続して活動することが決定した。保護者からは「リサイクルのシステムを子供に改めて説明し、SDGsと一緒に考える良いきっかけになりました。」といった声も上がり、様々な場所でSDGsの取り組みが徐々に浸透する成果へと繋げることができた。今回の取り組みを通じ、家庭内で相談できる、協力できる関係作りが構築され、家庭教育の礎を築くことができた。

7 成果と今後の課題

「夏休み みんなでSDGs」の活動報告から家庭内で真摯に取り組む姿勢が伺えた。親子共通のテーマで考えることで、コミュニケーションの向上やお互いの考えが把握できる機会にもなり、親子ともに成長することができた。家庭教育は親子双方が向き合って話し合う関係こそが大切であると気付かされた。ただ、今回すべての家庭で取り組まれたわけではなく、PTAの働きかけ方にも課題が残った。今後も家庭教育により深く携わるために、親子の絆が深まるような企画立案を行い、学校側と協力しながら活動に取り組んでいきたい。